200 THANK YOU 歴代担当者 思い出の市報

国東市の誕生とともに創刊した市報くにさき。今月号の200号に至るまで、５人の担当者が市報づくりを引き継いできました。毎号の紙面には、各担当者ならではの思いが込められています。歴代広報担当者の思い出の市報をご紹介します。

平成18年（2006年）4月号

やはり、市報第1号となる本号が一番の思い出です。旧4町の広報担当者で、取材、写真撮影、原稿作成を分担して作り上げました。表紙を飾った旧オレンジ保育所の園児も今や22歳と聞いて、時の流れを感じました。

平成20年（2008年）5月号

新年度となり、課の体制や印刷会社も変わった矢先、私（広報担当者）がまさかの病休1か月に…。課員の皆さんに市報制作を代打で行ってもらい、無事発行することができました。感謝感謝でした。

初代担当者

平成18年４月～平成21年３月

田川 幸伸（高齢者支援課）

平成22年（2010年）5月号

広報担当時代を振り返って、特に記憶に残っているのが「六郷満山峯入り」です。取材で修行の道を一緒に歩いたり、お接待をいただいたりしました。どこも温かく迎えてくれ、快く撮影に応じてくれたことを思い出します。

平成23年（2011年）11月号

大分空港開港40周年記念イベントの「滑走路ウオーキング」を取材しました（同号７ページ）。早朝の滑走路に誘導灯が点灯した中を歩くという、とても貴重な体験ができました。

２代目担当者

平成21年４月～平成24年３月

黒木 宏一（会計課）

平成26年（2014年）6月号

「世界農業遺産」の登録を記念し、初の「速報」（カラー両面、新聞号外風）を作成して市報に差し込みました。以後毎号表紙に「世界農業遺産の里・国東市」のロゴを入れ、関連する記事を掲載しました。

平成26年（2014年）7月号

第100号の記念号として、表紙は「武蔵町ホタルまつり」の来場の皆さんに協力してもらい“ほっと!ポーズ”を撮りました。また、「まちの話題」のページは「弥生のムラ・端午の節句イベント」に来場した赤ちゃん41人の笑顔の写真で埋めつくしました。

３代目担当者

平成24年4月～平成27年３月

中野 浄昭（じょうしょう）さん

※現在はご退職されています。

平成27年（2015年）6月号

広報担当2か月目、やる気だけで世界農業遺産の特集と「くにさきの原動力」（後々自分を苦しめることになる地元の事業者などを紹介するコーナー）を始めてしまい、締切が近づいてきても終わりが見えず、生みの苦しみを味わいました。

平成29年（2015年）12月号

広報3年目で、公共交通の特集を組みました。自分の伝えたい思いと紙面が初めてかみ合ったかなと思えた号です。また、県の広報コンクールでも本号が入賞しました。

４代目担当者

平成27年４月～平成31年３月

福田 恒太郎（活力創生課）

５代目担当者

平成31年４月～

矢野 千城（たてき）（政策企画課広報係）

市報200号の節目の担当者として、うれしく思っています。市報くにさきは「市民が主役の広報紙」として、たくさんの市民の皆さまが登場し、読みやすくわかりやすい紙面を心掛けていきます。これからもご愛読よろしくお願いします。

市報の４コマ漫画を描き続けて25年

清成 隆（観光課）

旧国東町の時から広報紙に4コマ漫画「おまかせくん」を連載しています。市になってからも連載を続け、今年の市報5月号で通算連載300回になりました。皆さまの応援に感謝しています。

読者に少しでも楽しんでもらえたらうれしいです。ご感想お待ちしています。

200 THANK YOU 記念号のあの人は今

市報くにさきには、数多くの市民の皆さんが登場します。仕事やスポーツで活躍する姿、イベントを笑顔で楽しむ姿、将来への意気込みを語る姿など、さまざまな場面の写真を掲載してきました。ここでは、第1号と第100号に登場していた方々に再びインタビュー。記念号のあの人は、今どうなっているのでしょうか!?

市報くにさきの第1号の表紙を飾った、旧オレンジ保育所（国東町原）の園児たち。園で国東市の誕生を祝っている場面の写真です。

当時6歳の染矢美南さんは、表紙の前列中央に赤い服を着て写っていました。16年後の現在、福岡県内の大学で教育学を学んでいます。高校教諭の父と小学校の恩師に影響を受け、中学生の頃から教職の道を志したという染矢さん。「尊敬する父のように、教え子から慕われる先生になりたい」と、大学で勉強や教育実習に熱心に励んできました。その努力が実り、来年から小学校の教壇に立ちます。

父と同じ教職の道を志し大学で教育学を学ぶ

福岡県内の大学４年

染矢 美南（みなみ）さん

平成18年（2006年）4月号

市報くにさきの第1号では、国東市誕生を記念して、市内16名の方々にインタビューを行っています。その中で、「（実家の）酪農に頑張っていきたい」と決意を述べていたのが、当時武蔵中学3年だった清末優さんです。

清末さんはその後、国東高校園芸ビジネス科から県の農業大学校総合畜産科へ進学。兄の滋さんと力を合わせて実家を継ぎ、16年前の宣言の通り酪農家になっています。清末さんは、「兄の酪農への情熱や知識に、私は遠く及びません。兄のような立派な酪農家を目指したいです」と次の目標を語っていました。

兄と力を合わせて武蔵町で実家の酪農を継ぐ

清末 優（まさる）さん 右

（左は兄の滋（しげる）さん）

平成18年（2006年）4月号より

記念すべき市報くにさき第１００号の表紙は、「第17回武蔵町ホタルまつり」（武蔵町麻田・報恩寺公園）の来場者をステージ側から撮影したものです。

最前列の中央付近に写っていた藤原さんと平塚さんは、当時6歳。8年経った今でも大親友です。志成学園の卓球部員としても互いに切磋琢磨しています。そんな二人の将来の夢は「ファッションに興味があるので、デザイナーになりたい（藤原さん）」「公務員の叔母にあこがれているので、公務員になりたい（平塚さん）」とのこと。これからも仲良く、互いに励まし合って、将来の夢を叶えてください。

８年経った今でも大親友

志成学園８年

藤原 叶汰（かなた）さん 左

平塚 優亜（ゆうあ）さん 右

平成26年（2014年）7月号